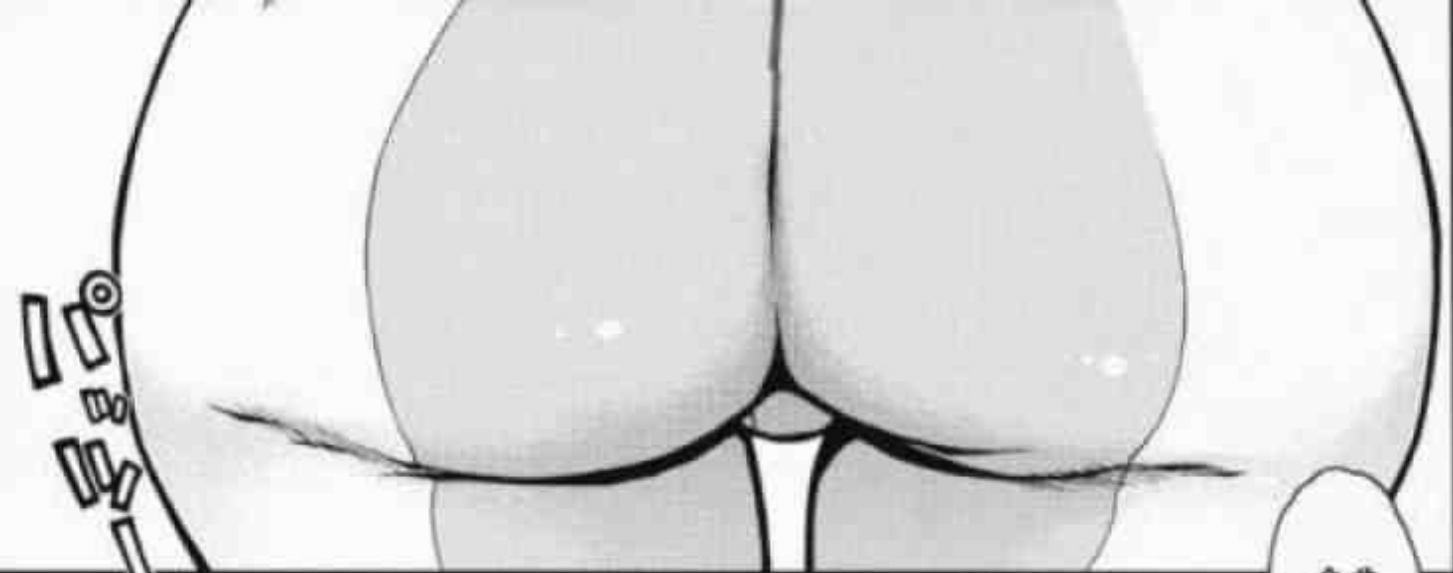


これが世界の歪みだ



Matumoto Drill Laboratory

R-18



サイズ
合わないの



スメラギさん...

あー...



すぐに
他の用意
します



セクハラです
ババァ!

わしは
そのままだ
いいな

キッ、
ブ、
ブ、
ブ、



ふふふたのー！

でも

ソレ前（さき）のと
同じサイズですよ？

これが世界の歪みだ

かすみ義幸
とこながのーん



とこながのーん

二年前—

クジョウッ

おきなよ
クジョウ

こんな所で寝てたら
カゼをひいてしまうよ

いーのっ！



ほら
んーほっといてよ
ビリー

私なんてもう
どうなっても
いいのよ

まったく
何を言っ
てるんだい

ふう

私は戦いに敗れ
自分に負け
今はこの男の元で
過ごしていた

困ったね

私の大学の
友人…

おやおや

私の事を
何も聞かずに
置いてくれる
優しい人



でも—

この—

けっきょく
こんな所で
寝てしまっ…

まったくこうなると
君はチコでも
起きないからね

まったく…

君は本当に
起きないよね

でもこの
優しさは…

まったく…

End

度が過ぎてる

襲え!!

ええっ!?!
起きてる!

かぶーん!



このタイミングで何で襲ってこないのよ!

しかも

あたしをネタにオナニーするならまだしも

なんでそんなムービーみてやってんのよ!

いやあのこれは...

ねてるスキにキミを...使ってそんな事なんて...

ひ...卑怯じゃないか...



こーゆー時は襲ってOKなの! ビリー・カタギリ!

ごめん
なさい!





き...

とろ
とろ

とろ
とろ
とろ



私の胸とか
学生時代いつも
見てたじゃない

もう興味なく
なっちゃった?

私もうオバサンだから
魅力なくなっちゃった?

シニじゃない?

ピリーは
女の人とこういう事
した事ないの?



ピリーは...



その...
僕は...

き...
きみは
十分魅力的だよ





全部
忘れさせてえー



たかろっ

こんな時まれっ

んっ

懐ひく
ひないでっ

んっ
いっばい抱シてー
もっとなしく
乱暴にしへえっ



ああ...でも...
そんなこと
どうすればいいか
わからないよ

んっ

教えてくれないか
戦術予備士さし

はあ...
なら教えて
あげる...
この口に
おちんちんを
突っこんで

乱暴に
かき回すの
むせ返るくらい
突き回してザーメン
ノドの奥に
ぶちまけちゃうの



へえ...
いいのかい？
本気でいくよー

うん
来ハ

じゃあ...
いくよ...

私に
罰を...



んっ

ああっ
スゴいよっ

クジヨウー
最高だよっ

んっ
あっ
こんなっ



はは…キミは
凄腕だね

ふふー
ね？優しくない
方が感じるの



あふ…

ドッ！



んっ
んっ
んっ



クショウ…

彼は
優しくする

彼は本当の
事を言った方が
いい…私は

ねえピリー
聞いて欲しいの

なんだい？

私…



ソレスタル・ビーイングの
戦術予報士
スメラギ・幸・ノリエガ
だっってのかい？

え？

ドッ！





ひやはっ
こっち親子丼
とじ(じ)りっ

あつ
ママッ
ママー

ママー

いいぜっ！ガキのケツは
締まりが通うぜ！

締ですうっ
締ですうっ

ママあつ
ママあつ

ママっしっかり
するですう！

あ
あ

あ
あ

あつ
あつ
ああつ
ミレイナッ

ミレイナッ

あーん？
奥さん感じ
ちゃってませんか？

ああつ私っ
だめなのっおちんぼ
見ちゃうと我慢
できなくなるのおつ

淫乱だわ

何が「ですう」
だバカ！

あつ
あつ

あつ
あつ

あつ
あつ
あつ
あつ

あつ
あつ

あつ
あつ



トキトキ

中にイクせ
奥さんっ

娘さんに
おめがけにラブペン
してやろらっ

トキトキ

ああんっ
あなたあ
ごめんさいいっ
私...イクっちゃうっ

トキトキ

娘のみへる
前で子宮と
直腸にドビュ
ドビュされへえ
受膣イキちゃうっ

トキトキ

おめがけにラブペン
してやろらっ

トキトキ

ああんっ
あなたあ
ごめんさいいっ
私...イクっちゃうっ

トキトキ

おめがけにラブペン
してやろらっ

トキトキ

ああんっ
あなたあ
ごめんさいいっ
私...イクっちゃうっ

トキトキ

ああんっ
あなたあ
ごめんさいいっ
私...イクっちゃうっ

トキトキ

トキトキ

おめがけにラブペン
してやろらっ

トキトキ

トキトキ

トキトキ

おーおー
そろそろ水しか
出てこないな

元人革さんの
特製洗練は
さすがに違うね

みんなの見てる前で
さんざんぶちまけ
ちゃったねー

そりゃあ
自我も
ふきとぶって
もんかな

ザリザリ
クセーW



おらケツ
あげろケツ

は…

はひ…
おにえがい
ひま…

あ

おいおい
ケツに器具入っちゃ
ってんじゃん

ヒデーW





あ

あ

あ

あ

はてさて

あ

あ

あ

あ

あはははっ
あはははっ
あはははっ

あはははっ

あはははっ

あ

あ

あはははっ

あはははっ
あはははっ
あはははっ





一行はアロウズに連行され、軍事法庭で人権を剝奪された人ではなくた彼女らは人知れず監禁されることになる。

そこで彼女らは想像を絶する酷辱を受けた。アロウズの侍兵に侮蔑されながら昼夜なく罵られ、気絶するまで責められた。無論目が覚めれば再び犯されるのである。藥物と洗脳で条件付けを施された身体では死ぬこともできない。

女たちはやがて抵抗を諦め、自らよがり狂うようになる。心の底から許しを乞い、尻を振り鞭打を見せつけながら拷問を受け入れていく。

ガンダムとマイスター達は個別に捕らえられ懲罰された。彼女らにはもはや運命を受け入れることしかできなかった。「私たちが間違っていました……、これからこの身体で皆様と激戦の方に……専任します……」

フェルトが頭を踏みつけられたまま固い言葉を言う。胸や性器にヒラシタリングがされ、痛めつけられると悦ぶように振られてしまったフェルトは個々の快感に溺れているようだ。

その横では実験動物の子供を妊娠したリングが、大きなお腹を腫すりながら賢明にペペスをなめしやがっている。「ああん……おちんぼお……私、これがないと一歩も歩き回れませんわ……おねがい、このいやらしいおみまふにおちんぼください。何匹でも赤ちゃん生みますから……」

リングは目の前で夫を処刑されてからは焦点の合わない目で快楽を貪るようになり、薬で股を開くようになった。心を壊され、淫乱態に調教されたリングをそれでも痛い続けたミレイナは……にはいない。幼い身体に入れ歯を入れられ、高級料飲に馴み者にされている。

何人もの男にこぼりと射撃され、ニコニコと精液を垂れ流しながらスメラギはぼんやりとそんな地獄を見つめていた。乱暴に身体を責められた余韻がじんじんと身体を焼き、間接はさしきしきと悲鳴をあげている。口を開けば鼻と共に液が溢れ白濁病が口の端から垂れ落ちた。

熟れた肌をヒクヒク痙攣させ、スメラギは堪えにがたつめの仲間達の変わり果てた顔面を眺める。

いきなり腹り上げられた。

「げほげほと嘆き込み、精液を鼻から逆流させて虚ろに上を向く。『さすが天才戦術士親士、正確な情報だ。おかげでワレスタルヒートリングの拠点はすべて破壊したよ』」

「……」
「彼らは東照罪人だ。捕らえられたメンバーは死ぬまで地獄だよ。君のせいだね。」

枯れ果てたはずの胸が頬を伝い、こぼりついた精液を流した。身体が乱暴に引き寄せられ、性射撃が乳首にあてられる。「……さあ、約束の二重奏だ。最後がいい夢を見たまえ。」

第一級アロウズの末路は決まっている。絶分までのわずかな時間、スメラギはめぐるめく官能に身を任せるところに決めた。「これでいいのよ……だって、私にながでさたうていうのよ……」

はしたなく物恥した乳首に精液が注入されると興奮するやうな興奮が音階を弄り、ピクーンを身体を仰け反らせて噴きあげた。「ふっ、はっ……ああ、ああ……あひいひい……クッ……きまつ……乳首イイッ……おまんこいいっ……」

股間から愛液が噴き出し、精液と混ざり合せて喉のように振る。ピンピンとどる乳首をうまみ、ひねりあげて自ら悶絶し、貪るように開れそぼろ股間に手をあてがい、指を差し込む。「ひいひい……ぞもじい……あぐく、ひっ、あぐぐ、あひやああ……イイッ……イイイイ……おまんこ……おまんこ……いいのおお……」

あまりにもはしたない離腺を冷たい目で見下すと、男は唾を吐いて立ち去った。だれたらう。知っている人だった気がするが、しかし体中から押し寄せる強烈な官能に、すべては消えてゆく。スメラギは同士たちを誘った罪悪感を忘れようと快感を貪った。

所謂、戦争根絶など華物語だったのだ。なにがもたらされて、奴隷になれはよかつたのだ。自分こそが夢見ている事ではなかつた。「ひいひい……ちくびっ、ちくびっ……ええええ……むちろくちろくしてええ……二下ルのをええいかにしてええええ……」

フェルトがきりぎりしと乳首を引っ張られ、ピクスの穴が裂けそうになる快感に痺れながら涙を振りまいている。

「あひい……あひい……私に許さす……腺の赤ちゃんを産みます……あなたも、私は許さしたあ……」

リングは虚ろな目で母乳を吹き出し、抱を吹いて気絶した。

地獄で働く女達のよがり声がスメラギの性感をなぞりあげ、焼付けくような背徳にまみれて心地よい。

ズクズクと胸から伝ふす悪い快楽の液滴が放たれる。乳口陣巾のように痺れた身体に液滴が広がる。スメラギは全身をくねらせて大のよりにあぐさながら絶頂を繰り返す。

狙えすきて形が変わった性器をくちくちろくにかき混ぜ、スメラギは二輪の分助れた許しに酔いしれるように悶え狂った。胸や股間を広げた無様な嗜好で藥物オナニーを貪る自分をさげすんだ目で見る男たち、その朝すような視線すら忘れ、恥辱にまみれた真れた絶頂に翻弄されながらすべてが消えてゆく。白く、ただ白く。

むらちりと顔の乗った顔を振り立て、喉の声で声高に卑劣な言葉を並べ立てる。

熟れた女体を震わせ、最後のオルガスペスを理える中、スメラギの麻痺に痺しく微笑む男性の姿が浮かんだ。

（ああ、エミリオ……）
その瞬間、スメラギは人生最高の彼を感じた。

ひときり震い嵐のような絶頂に身体をくねり狂わせ、自らが出した水たまりに顔をツツがす。

無様に尻を高くつきだして、なお股間をまさぐりながらスメラギは幸せだった。







Matumoto Drill Ladorotory